

2026年2月20日

CVIT会員 各位

対照血管径3.0mm以上の新規冠動脈病変に対するDCBの使用について

日本心血管インターベンション治療学会

理事長 上妻 謙

副理事長 森野禎浩

保険診療・医療制度委員会 委員長 新家俊郎

対照血管径3.0mm以上の新規冠動脈病変に対するDCBの使用につきましては、当学会より2022年12月1日にステートメントを発出し、2023年2月20日にはその補足説明、さらに同年8月14日には記載内容の変更をそれぞれ発出してきましたところです。

今般、ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社の「Agentパクリタキセルコーティッド バルーンカテーテル」が、DCB Real World Registry（Alliance Registry）の結果を元に対照血管径3.0mm以上の新規冠動脈病変への使用について適応拡大の製造販売承認を受けました。これを踏まえ対照血管径3.0mm以上の新規冠動脈病変に対するDCBの使用について、ステートメントの内容を2026年2月20日より以下の通り変更いたします。

記

1. 使用条件

「SeQuent® Please Neo ドラッグ イルーティング バルーンカテーテル」または「Agentパクリタキセルコーティッド バルーンカテーテル」を対照血管径3.0mm以上の新規冠動脈病変へ使用する際は、以下に示す症例及び病変に使用してください。

2. DCB治療が考慮される症例及び病変

- ・出血リスクが高い患者又はステント留置に伴う長期の抗血小板療法が困難と考えられる患者
- ・ステントの成績が十分確立していない病変（回旋枝入口部、分岐部側枝等）

ただし、DCB治療時の前拡張において重度の解離が発生した場合は、急性冠閉塞のリスクがあるためステント留置を考慮する。

以上